

優秀賞

私の夢と生命保険の重要性

福島県 いわき市立植田東中学校 三学年

勝 心々絆

私は将来、プロのダンサーになりたいと思っています。ダンスは小さい頃から続けていて、音楽に合わせて体を動かしていると、自分の気持ちや想いを表現できる気がします。ステージに立ったときの高揚感や、見ている人と心がつながったように感じる瞬間が、とても好きです。だから私は、大人になってもダンスを続けていきたいし、それを仕事にできればどんなに幸せだろう、と思っています。

でも最近、「好きなことを仕事にする」ことの大変さについても、少しずつ考えるようになりました。ダンスの先生が、「ダンサーは体が全て。ケガをしたら踊れないし、収入も止まってしまう。」と話していたのを聞いたとき、夢を追うことの厳しさに改めて気づかされました。毎日の練習では、足をひねったり、転んだりすることもあります。もしそのケガが大きかったら、何カ月も踊れなくなることであったります。そこで「生命保険」の存在が頭をよぎりました。私は今まで、保険といえばお年寄りや病気になった人が使うもの、というイメージしかありませんでした。でも調べてみると、私のように体を使う仕事を目指している人には、とても身近で大切なものだと分かりました。プロのダンサーでも、ケガや病気で仕事が続けられなくなったとき、保険に助けられることがあるそうです。生命保険には、病気やケガで入院したときに保障されるもの、働けなくなったときに助けてくれるものなど、さまざまな種類があります。特にダンサーのような職業では、ケガ一つで長く踊れなくなることもあり、その間は収入がゼロになってしまうこともあるそうです。そんなとき、保険に入っていれば、安心して治療に専念できるし、生活の不安も少し軽くなります。さらに、学校の授業での「職業調べ」ではダンサーは会社員のように安定した給料や保障がないことを知りました。自分で仕事をとって、自分でスケジュールを管理し、そして自分で生活を守る必要がある。そう考えると、保険は「もしも」のときの心の支えになるものだと感じました。

私はこれまで、「夢を叶えること」にばかり目を向けていたけれど、その夢を「続けていくこと」の大切さにも気づき始めました。ダンサーになれたとしても、それがずっと続くとは限らない。ケガや病気、生活の変化、そういった「もしも」にも目を向けておくことが、本当の意味で夢と向き合うことなのかもしれない。夢を見ることと、現実を知ることとは、きつとどちらも大切です。私はこれからダンスを頑張っていきたいと思っています。でも同時に、自分の体を大切にし、将来についてもしっかり考えていきたいです。

第63回中学生作文コンクール

生命保険は、すぐに必要になるものではないかもしれないけれど、そういう備えを知っておくことは、夢に向かう私にとって大切な一歩だと思いました。これから先、楽しいことばかりではないかもしれないけれど、ダンサーとして生きていける未来を目指して、努力と準備を続けていきたいです。また、これを自分の知識として心に留め、周りの人にも「生命保険」について知らせたいと思います。